

## 平成22年度 病院事業会計予算概要

平成22年度の病院事業会計予算は、平成21年1月に策定した「留萌市立病院改革プラン」に基づき、収入の確保と費用の抑制を進め、単年度収支均衡を最大の目標として編成を行いました。

まず、収益的（損益勘定）収支において、収入の確保につきましては、大学病院医局の事情により皮膚科と泌尿器科で医師派遣が打ち切られるものの、これまで行ってきた医師確保活動が実を結び、循環器内科の体制充実（固定医2人体制）と眼科の固定医化、順天堂大学からの腎臓内科医の派遣継続、さらには、将来の地域医療を担う核となる総合医2人が着任するなど、昨年11月からの脳神経外科の体制充実（固定医2人体制）を含めて、診療内容の充実・拡大が可能となることから、診療収益は本院・診療所合わせて43億2千万円を予定し、事業収益合計では、平成21年度決算見込みと比べて、2億3千8百万円増収となる53億2千3百万円を予定しています。

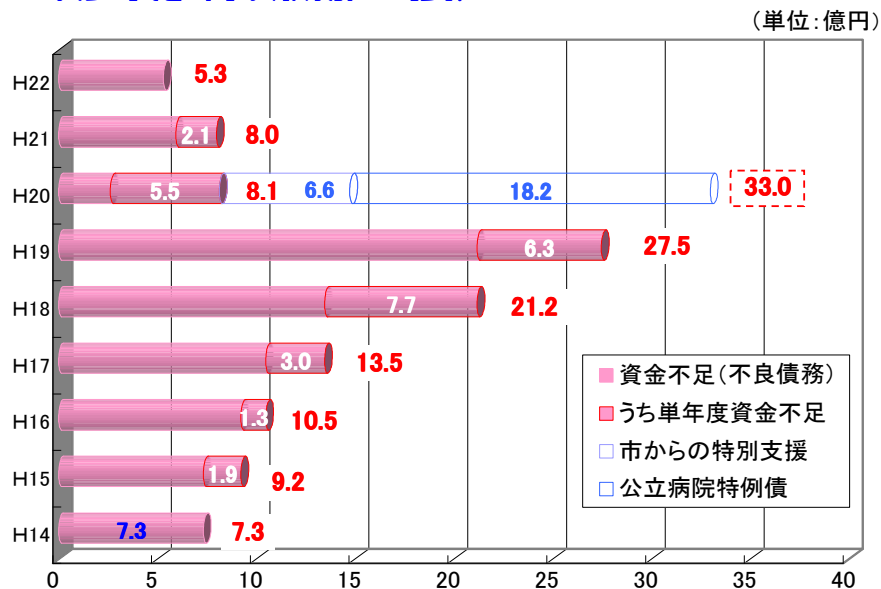
費用につきましては、職員（医師除く）の給与カットや経費節減を継続して行いますが、看護師やリハビリ、視能訓練士などの医療スタッフの増員と、医療関係のシステムの維持・更新作業が必要となることで、人件費や委託料などで費用の増加を予定しているため、事業費用合計では、平成21年度決算見込みと比べて1億2百万円増額となる54億2千万円を予定しています。

この結果、損益勘定収支差引では、平成21年度決算見込みからは1億3千6百万円の収支改善となっていますが、それでも9千7百万円の純損失が発生することとなります。

また、資本的収支においても2億4千万円の収支不足が生じていますが、損益勘定留保資金※が6億5百万円ありますので、これらを差し引きしますと、市からの特別な支援を除いた病院事業単独での実質単年度収支は4千8百万円の黒字となり、最大の目標としている収支均衡達成となる予算となっています。

※損益勘定留保資金 減価償却費や固定資産の除却費など費用として予算計上されながら、現金の支出を必要としないものの合計額のことです。

### ☆資金不足（不良債務）の推移☆



※各項目で端数処理しているため、合計が合わない場合があります

### ☆実質収支比較☆

(単位:百万円)

区 分	H22 予 算	H21 見 込 み	増 減
事業収益計①	5,323.1	5,084.7	238.4
事業費用計②	5,420.5	5,318.5	102.0
純損益(△損失)③			
①			
②	△ 97.4	△ 233.8	136.4
損益勘定留保資金④	604.9	611.2	△ 6.3
資本的収支差引⑤	△ 239.5	△ 362.4	122.9
単年度収支⑥			
③ + ④ + ⑤	268.0	15.0	253.0
特別支援等⑦	220.0	220.0	0.0
実質単年度収支⑥-⑦	48.0	△ 205.0	253.0
資金不足(不良債務)額	530.0	798.0	△ 268.0

※事業収益及び費用は税抜きで表示しています。

# 1. 収益的収入の状況

病院事業の収入は、みなさんの入院料及び外来診療料等によりまかなわれています。内訳は、下記のとおりです。

※税抜きで表示

(単位：千円、%)

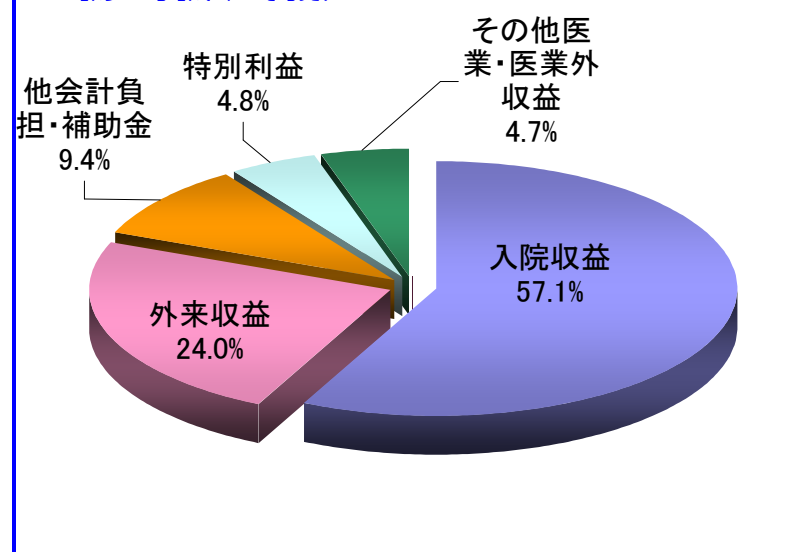
区分	内 容	平成 22 年 度		平成 21 年 度		比較増減	増減率
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額B	決算見込額C		
入院収益	入院料など	3,040,957	57.1	3,044,349	2,805,861	235,096	8.4
外来収益	本院及び診療所の外来診療料など	1,274,795	24.0	1,267,046	1,301,293	△ 26,498	△ 2.0
他会計負担・補助金	留萌市からの負担金・補助金（繰入金）	502,283	9.4	491,243	496,676	5,607	1.1
その他医業収益	室料差額、健康診断料、診療所の交通費実費分など	208,364	3.9	169,317	169,318	39,046	23.1
医業外収益	道補助金、職員給食費・保育料など	39,778	0.8	56,323	56,323	△ 16,545	△ 29.4
特別利益	資産の売却益など（22年度は特例債元金償還支援）	256,972	4.8	260,616	255,183	1,789	0.7
合 計		5,323,149	100.0	5,288,894	5,084,654	238,495	4.7

前年度決算見込みと比較して、泌尿器科と皮膚科で固定医派遣が打ち切られることで利用者の減少が見込まれますが、循環器内科と脳神経外科の診療体制充実や眼科の固定医化、総合内科医の着任などにより、入院・外来収益は2億9百万円の増収を予定しています。また、その他医業収益においては、健診・ドックの拡充や使用料手数料の見直しなどを見込んで、3千9百万円の増加を予定しています。

医業外の収益は、北海道からの補助金などで減額が見込まれますが、留萌市からの支援に関しては、前年度にルール化した救急、小児・周産期医療への繰入に加え、子ども手当導入に伴う補助金の増額などで、6百万円の増を予定しています。

これにより収益的収入の合計は、前年度決算見込みと比較して、2億3千8百万円増の53億2千3百万円を予定しています。

## ☆収益的収入の内訳☆



## ☆主な増減内訳☆

		(単位：千円)
入院収益	利用者増 2,288人	235,096増収 (循環器内科、眼科医師増 など)
外来収益	利用者減 △5,030人	26,498減収 (泌尿器科、皮膚科医師減 など)
他会計負担・補助金	留萌市からの繰入金	の増 (子ども手当支給経費 8,654 など)
その他医業収益	室料差額収益の増 8,057、健康診断収益の増 10,356	分娩料等収益の増 13,197 など
医業外収益	道補助金の減(地域サポートセンター整備事業 △11,775 など)	
特別利益	公立病院特例債元金償還	1,789

## 2. 収益的支出の状況

職員の給料、医薬品購入等の病院事業を運営するために必要な経費です。内訳は、下記のとおりです。

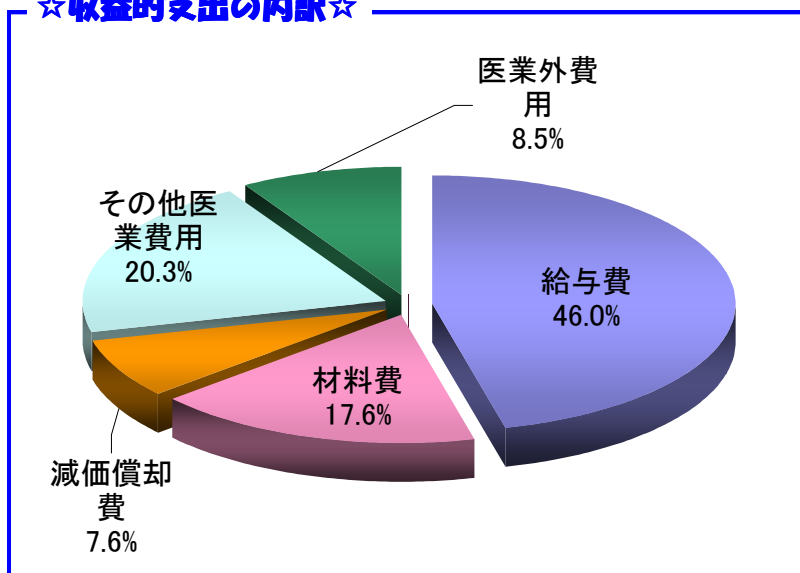
※税抜きで表示

(単位：千円、%)

区分	内 容	平成 22 年 度		平成 21 年 度		比較増減 D (A - C)	増減率 D / C
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額 B	決算見込額 C		
給 与 費	職員の給料・手当など	2,492,561	46.0	2,376,423	2,329,790	162,771	7.0
材 料 費	薬・注射・診療に用いる材料・給食材料など	952,800	17.6	999,091	999,091	△ 46,291	△ 4.6
減 価 償 却 費	建物や機器などの減価償却	410,046	7.6	412,543	412,543	△ 2,497	△ 0.6
その他医業費用	診療委託料(出張医)・施設維持管理経費など	1,103,526	20.3	1,089,568	1,098,022	5,504	0.5
医業外費用	企業債(借入金)利息・保育施設経費・患者搬送費など	458,723	8.5	483,039	464,827	△ 6,104	△ 1.3
特別損失	貸付金償還免除費、医療費収入不納欠損金など	1	0.0	5,400	11,411	△ 11,410	△ 100.0
予 備 費		2,857	0.0	2,857	2,857	0	0.0
合 計		5,420,514	100.0	5,368,921	5,318,541	101,973	1.9

前年度決算見込み額と比較して、看護師やリハビリ、視能訓練士など医療スタッフの増員や共済費負担率の上昇などにより、給与費で1億6千3百万円の増加を予定しています。また、医療関係のシステム維持・更新作業などでその他医業費用が6百万円増加する見込みですが、材料費購入の見直しで4千6百万円の減少をはじめ、企業債利子6百万円や、特別損失1千1百万円など減額を予定している費用もあり、これにより収益的支出の合計では、前年度決算見込額と比較して、1億2百万円増の54億2千1百万円を予定しています

### ☆収益的支出の内訳☆



### ☆主な増減内訳☆

(単位：千円)

給 与 費	医療スタッフ(看護師、リハビリ、視能訓練士等)の増員、共済費負担率の上昇などによる給与費増 162,771
材 料 費	安価な製品への入れ替えなど材料費の抑制を実施 △46,291
減 価 償 却 費	器械及び備品償却費の減 △2,497
その他医業費用	医療関係システムの維持、更新経費の増 21,422 光熱・燃料費の節約 △19,300 など
医 業 外 費 用	企業債利子の減 △6,614 など
特 別 損 失	貸付金償還免除費の減 △5,400、固定資産売却損の減 △1,401 医療費不納欠損の減 △4,610 など

### 3. 資本的収支の状況

資本的収支とは将来の経営活動に備えて行う医療機械の購入・施設整備やそれにかかる企業債の元金償還、勸奨や定年退職者の退職金などの支出とその財源になる借入金や企業債償還のための留萌市からの出資金などの収入のことをいいます。内訳は、下記のとおりです。

#### ☆資本的収入☆

(単位：千円、%)

区分	内 容	平成 22 年 度		平成 21 年 度		比較増減 D (A - C)	増減率 D / C
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額B	決算見込額C		
企 業 債	企業債（借入金）	50,000	8.6	50,000	41,200	8,800	21.4
他会計出資・負担・補助金	留萌市からの出資金、負担金・補助金（繰入金）	526,788	90.7	525,473	525,473	1,315	0.3
そ の 他	資産購入補助金、固定資産売却代金、貸付金償還金	4,203	0.7		800	3,403	425.4
資本的収入合計		580,991	100.0	575,473	567,473	13,518	2.4

#### ☆資本的支出☆

(単位：千円、%)

区分	内 容	平成 22 年 度		平成 21 年 度		比較増減 D (A - C)	増減率 D / C
		予 算 額 A	構 成 比	当初予算額B	決算見込額C		
建 設 改 良 費	医療器械の購入・施設整備など	59,920	7.3	55,970	48,319	11,601	24.0
企 業 債 償 還 金	企業債の元金償還金	699,784	85.3	703,425	697,992	1,792	0.3
繰 延 勘 定	勸奨や定年退職者の退職金	37,107	4.5	51,597	161,865	△ 124,758	△ 77.1
そ の 他	修学資金・研究資金貸付金など	23,724	2.9	13,280	21,680	2,044	9.4
資本的支出合計		820,535	100.0	824,272	929,856	△ 109,321	△ 11.8
収 支 差 引		△ 239,544	—	△ 248,799	△ 362,383	122,839	△ 33.9

平成22年度には、企業債（借入金）と補助金を財源とした医療器械や設備、システムなどの更新で6千万円を予定しています。また、看護師確保対策として取り組んでいる修学資金貸付金の貸付予定者を30人（新規で10人）、これに当院就職後の研究資金貸付金を含めまして、2千4百万円を予定しています。

このほか前年度決算見込額と比較して、退職予定者が減ったことにより、退職給与金1億2千5百万円の減少を予定していますが、資本的収支差引においては、なお2億4千万円の不足が見込まれます。

※この収支不足額は、損益勘定留保資金で補てんしています。

#### ☆主な増減内訳☆

<収益>

(単位：千円)

企 業 債	医療器械等整備事業債 8,800増(発行予定額 50,000)
他会計出資・負担・補助金	留萌市からの出資金(企業債元金償還負担)の増 1,128 など
そ の 他	簡易陰圧装置整備事業補助金 4,200

#### ☆主な増減内訳☆

<費用>

(単位：千円)

建 設 改 良 費	医療器械等整備(企業債)事業 8,670(事業費 50,000) 簡易陰圧装置整備 4,200 など
企 業 債 償 還 金	公立病院特例債元金償還の増 1,789
繰 延 勘 定 ・ そ の 他	退職予定者の減による退職給与金の減 △124,758 貸付金対象者の増 2,044

## 4. 企業債残高及び元利償還金の状況

企業債とは、建設改良事業(病院の場合は病院や医師住宅の建設、医療器械やシステムの購入など)を行うにあたり、資金が不足している場合に起こす地方債(借金)のことです。

病院事業の元利償還(返済)金は、病院建設事業(本体工事や周辺整備、移転のために更新した医療器械)のために借り入れた企業債の返済が本格化したために年々増加し、平成18年度には8億3千万円にまで上昇、一端ピークを迎えました。その後、医療器械分の返済の一部が終了しましたので、19、20年度は6億円程度にまで下がりましたが、20年度に公立病院特例債(18億2千4百万円)を発行したことにより残高が増加し、返済額も平成21年度からは8億6千万円に上昇しています。(公立病院特例債の元利償還金は、市が負担することとなっています。)

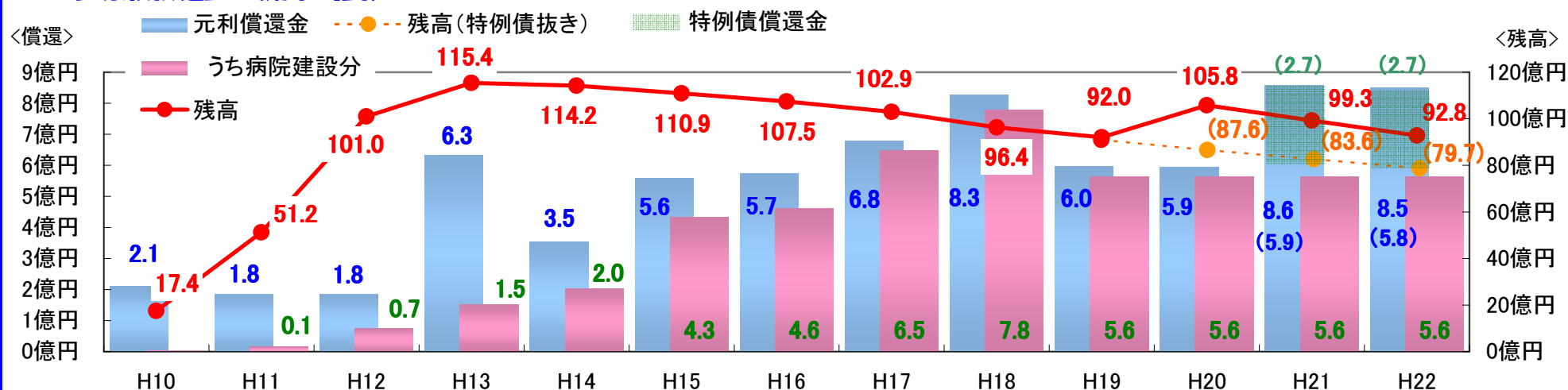
今後、移転改築時に導入した医療器械やシステムなどの更新時期になりますが、必要な医療器械等について病院内で精査し、適切な更新・導入を行うことで建設改良事業を抑制していますので、残高は緩やかに減少していきます。

### ☆企業債償還金及び残高の推移☆

(単位：百万円)

	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
元 金	166	138	138	462	172	377	394	504	659	436	440	698	700
利 子	44	47	47	170	182	181	178	174	169	161	154	160	151
元 利 償 還 金	210	185	185	633	355	558	572	678	827	597	595	858	851
うち病院建設分	3	14	75	152	202	432	461	649	778	563	563	563	563
うち公立病院特例債												267	268
残 高	1,744	5,124	10,098	11,544	11,419	11,092	10,748	10,294	9,635	9,200	10,583	9,927	9,277
特例債除く残高											8,759	8,357	7,965

### ☆企業債償還金と残高の推移☆



※H13は新病院完成に伴い、旧施設処分にかかる繰上償還(2億64百万円)を実施しているため一時的に償還額が増えています

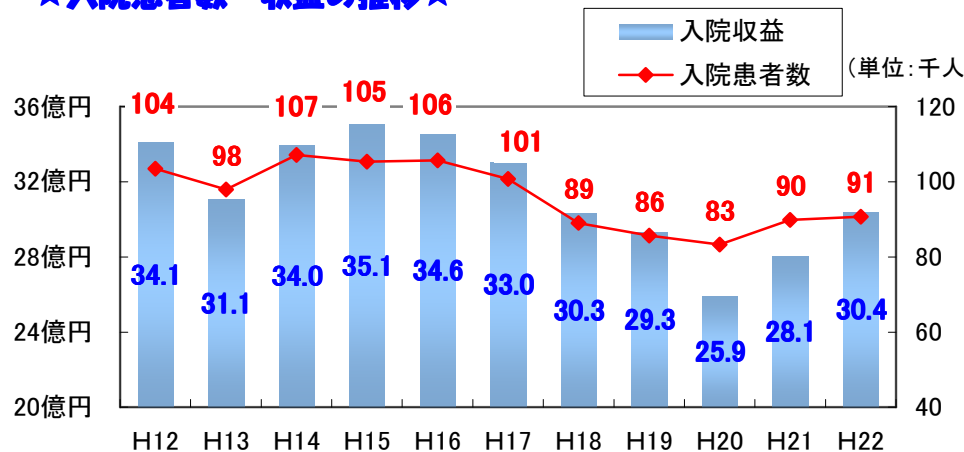


## 5. 利用者数及び入院・外来収益の推移

当院利用者数は、平成16年度から実施されている医師の新臨床研修制度の影響から、大学病院医局の医師派遣事情により固定医が確保できない診療科が増え始めたことにより毎年度減少し続け、平成20年度においては入院患者は療養病棟が本格稼働しているにもかかわらず8万3千人にまで減少、外来においても12万8千人となり、ここ数年間で最低を記録してしまいましたが、平成21年度は、皮膚科、脳神経外科の固定医の確保などにより診療を拡大することで、入院・外来ともに利用者は増加に転じました。平成22年度につきましても、循環器内科の充実と眼科の固定医化、順天堂大学からの腎臓内科医の派遣継続、総合医の着任などによりまして、皮膚科と泌尿器科の出張医体制への縮小の影響を最小限に抑えることができる見込みで、今後の経営健全化に向けてようやく明るい兆しが見られるようになりました。

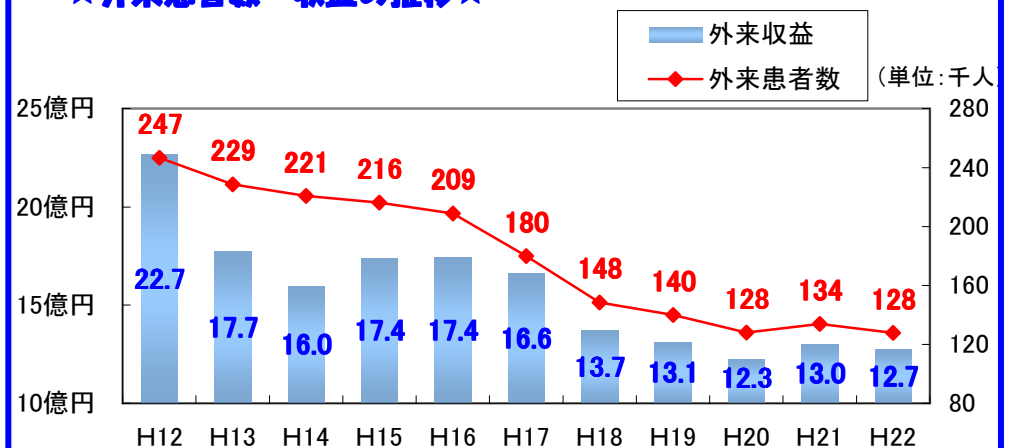
収益におきましては、外来は平成22年度は平成21年度見込みを下回りますが、入院においては4年ぶりに30億円台への回復が見込まれます。

### ☆入院患者数・収益の推移☆



- ・平成13年度 新病院への移転に伴う入院患者調整
- ・平成14年度 新築効果による患者数の増
- ・平成15年度 長期入院患者の減による延患者数の減  
看護体制充実などによる診療単価の上昇
- ・平成16年度 形成外科入院診療休止、産婦人科体制縮小
- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科入院診療休止
- ・平成18年度 呼吸器内科入院診療休止、循環器内科体制縮小
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小  
11月より療養病棟（50床）開設
- ・平成20年度 循環器内科入院診療休止
- ・平成21年度 皮膚科入院診療再開  
脳神経外科入院診療拡大
- ・平成22年度 循環器内科、眼科の入院診療再開  
皮膚科、泌尿器科入院診療休止

### ☆外来患者数・収益の推移☆



- ・平成13年度 新システムの始動に伴う患者制限  
院外処方拡大による診療単価の減
- ・平成14年度 長期投薬解禁に伴う再来患者数の減
- ・平成16年度 産婦人科、形成外科の診療体制の縮小
- ・平成17年度 皮膚科、耳鼻咽喉科の診療体制の縮小
- ・平成18年度 循環器内科、呼吸器内科の診療体制の縮小
- ・平成19年度 外科、脳神経外科の診療体制縮小  
10月より在宅支援診療所開設
- ・平成20年度 在宅診療本格稼働
- ・平成21年度 脳神経外科診療体制拡充
- ・平成22年度 循環器内科、眼科の診療体制拡充  
皮膚科、泌尿器科の診療体制縮小

## 6. 予定貸借対照表 ～バランス・シート～ (平成23年3月31日)

貸借対照表とは、一定時点における会計の財政状況を示す一覧表のことで、「資産」と「負債」「資本」を対照表示することによって、会計の財政状況を明らかにする財務諸表です。資産合計と負債資本合計が必ず一致し、表の左右のバランスがとれるのでバランスシートとも呼ばれます。

※資産の部の未収金が約8億円もありますが、この中には月遅れで入金される保険者(社会保険や国民健康保険など)からの収益や道からの補助金などが含まれています。

### ☆資産の部☆

区分	金額
1 固定資産	
(1) 有形固定資産	
イ 土地	519,764
ロ 建物	5,600,743
ハ 構築物	94,113
ニ 器械及び備品	341,191
ホ 車両	629
ヘ 建設仮勘定	0
有形固定資産合計	6,556,440
(2) 無形固定資産	
イ 電話加入権	1,858
無形固定資産合計	1,858
(3) 投資	
イ 看護師修学資金貸付金	50,073
ロ 看護師研究資金貸付金	11,500
投資合計	61,573
<b>固定資産合計</b>	<b>6,619,871</b>
2 流動資産	
(1) 現金預金	56,614
(2) 未収金	828,728
(3) 貯蔵品	33,007
(4) 前払金	0
(5) 仮払金	0
<b>流動資産合計</b>	<b>918,349</b>
3 繰延勘定	
(1) 退職給与金	381,204
(2) 控除対象外消費税額	264,028
<b>繰延勘定合計</b>	<b>645,232</b>

(単位:千円)

資産合計 8,183,452

### ☆負債の部☆

区分	金額
4 固定負債	
(1) 公立病院特例債	1,312,145
(2) その他固定負債	25,028
<b>固定負債合計</b>	<b>1,337,173</b>
5 流動負債	
(1) 一時借入金	1,050,000
(2) 未払金	374,377
(3) 預り金	23,959
<b>流動負債合計</b>	<b>1,448,336</b>

### ☆資本の部☆

区分	金額
6 資本	
(1) 自己資本	
イ 固有資本	1,793
ロ 繰入資本	3,412,280
ハ 組入資本	16,850
自己資本合計	3,430,923
(2) 借入資本	
イ 企業債	7,964,678
借入資本合計	7,964,678
<b>資本金合計</b>	<b>11,395,601</b>
7 剰余金	
(1) 資本剰余金	
イ 寄附金	7,301
ロ 国道補助金	614,296
ハ 他会計補助負担金	2,708,280
ニ 受贈財産評価額	37,761
資本剰余金合計	3,367,638
(2) 欠損	
イ 当年度未処理欠損金	9,365,296
欠損金合計	9,365,296
<b>剰余金合計</b>	<b>△ 5,997,658</b>

負債資本合計 8,183,452

## 7. 予定キャッシュフロー計算書 (平成22年4月1日～平成23年3月31日)

キャッシュフロー計算書とは、一定期間の「現金(キャッシュ)の流れ(フロー)」を業務活動・投資活動・財務活動などに区分して表す財務諸表です。会計上の損益の額は現金等の収支と一致しないため、キャッシュフロー(CF)計算書を用いることで損益計算書等では見えてこない現金の流れを知ることができます。

(単位:千円)

### ☆①業務活動によるCF☆

区分	予定額	損益勘定留保資金	キャッシュフロー
入院・外来収益	4,278,768		
他会計負担金(3条・医業)	84,219		
その他医業収入	207,679		
沖見診療所収益	37,669		
給与費支出	△ 2,462,566		
材料費支出	△ 949,407		
経費支出	△ 1,082,323		
研究研修費支出	△ 16,152		
資産減耗費	△ 1,600	1,500	
減価償却費	△ 410,046	410,046	
沖見診療所費用	△ 36,839		
医業収支	△ 350,598		
受取利息及び配当金収入	1		
患者外給食収入	1,548		
他会計補助及び負担金(3条)	418,064		
道補助金	12,886		
保育施設収入	2,014		
その他医業外収入	23,329		
支払利息支出	△ 161,390		
患者外給食材料費支出	△ 1,223		
保育施設費支出	△ 13,141		
繰延勘定償却費	△ 190,503	190,503	
患者搬送費支出	△ 3,396		
その他医業外費用支出	△ 89,070	2,756	
消費税資本的収支調整額	0	145	
経常損益	△ 351,479		
特別利益収入	256,972		
特別損失支出	△ 1		
予備費(3条)	△ 2,857		
当年度純損益	△ 97,365		
流動資産・流動負債収支A		507,585	
未収金の増加額			△ 41,689
たな卸資産の減少額			100
未払金の増加額			△ 164,175
キャッシュフロー調整額			△ 205,764
業務活動によるキャッシュフロー			301,821

### ☆②投資活動によるCF☆

区分	予定額	損益勘定留保資金	キャッシュフロー
固定資産の取得による支出	△ 59,920		
上記にかかる補助金等	4,201		
固定資産の売却代金	1		
修学資金・研究資金貸付金	△ 22,724		
修学資金・研究資金貸付金償還金	1		
繰延勘定(4条退職給与金)	△ 37,107		
予備費(4条)	△ 1,000		
流動資産・流動負債収支B		△ 116,548	
未収金の増加額			△ 4,200
未払金の増加額			37,107
キャッシュ・フロー調整額			32,907
投資活動によるキャッシュフロー			△ 83,641

### ☆③財務活動によるCF☆

区分	予定額	損益勘定留保資金	キャッシュフロー
長期借入(企業債)による収入	50,000		
長期借入(企業債)の返済	△ 699,784		
他会計出資金	292,881		
他会計負担・補助金(4条分)	233,907		
流動資産・流動負債収支C		△ 122,996	
短期借入による収入			2,000,000
短期借入の返済			△ 2,050,000
キャッシュ・フロー調整額			△ 50,000
財務活動によるキャッシュフロー			△ 172,996

☆④現金等の増加(減少)額☆ ①+②+③ = 45,184

☆⑤現金等の期首残高☆ 11,430

☆⑥現金等の期末残高☆ ④+⑤ = 56,614

※参考 流動資産・流動負債収支(A+B+C) 268,041

・業務活動によるCF: サービスの提供など営業活動から稼ぎ出した現金  
 ・投資活動によるCF: 資産の取得、売却など  
 ・財務活動によるCF: 借入金や市の繰入など外部からの資金調達  
 ※資本的収支239,544千円の不足を損益勘定留保資金で補っています